

K A N A T A N O K I S H I

DREAM, DEJA VU, DAYDREAM

カ

キ

タ

ノ

キ

シ

石切場

I S H I K I R I B A

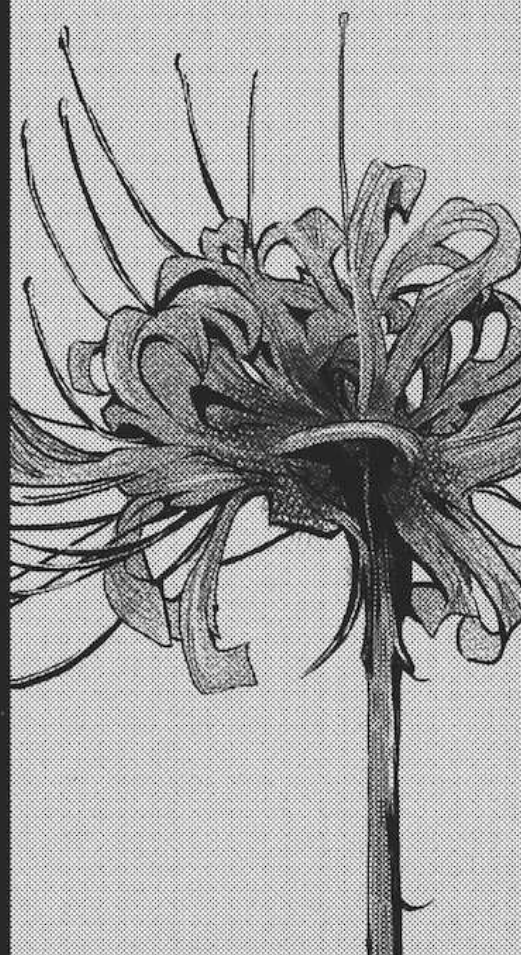
I CAN "NOT" FEEL IT COMING IN THE AIR TONIGHT...

T A N O S H I K I K A N A

カナタノキシ
DREAM, DEJA VU, DAYDREAM

石切場

I can not feel it coming in the air tonight...

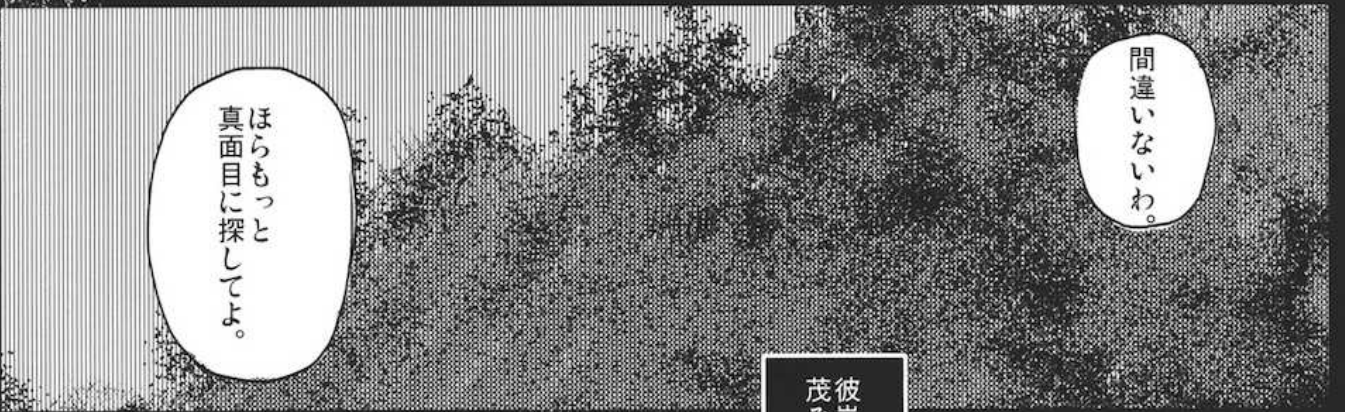




ほんとに
この辺りなの？

目的の場所に
着くと

そこには
彼岸花が
咲いていた。

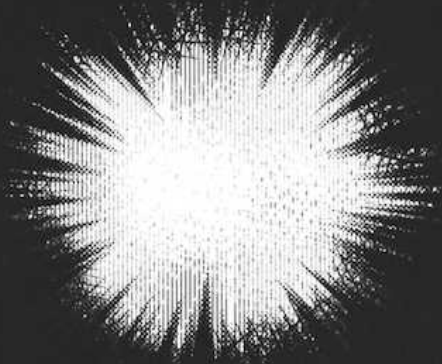


間違いないわ。

ほらもっと
真面目に探してよ。

彼岸花の近くの
茂みを抜けた時、

一瞬、結界を
くぐる時の、
あの感覚がした。





村は確かに
そこにあった。

カナタノキシ

DREAM, DEJA VU, DAYDREAM

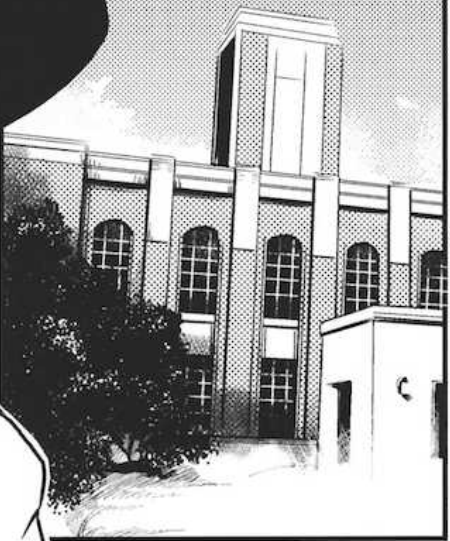
石切場

I can not feel it coming in the air tonight...



村探し？

そ.ちよっと
興味深い
情報を手
してね。



久しぶりの
倶楽部活動には
もってこいでしょ？

マエリベリ！
ハーンさん？



あの蓮子：
つきなり村探し
って言われても

この写真見て。
いつもの
裏の裏の

何の村を
探すの？



なにこれ…

結果の裂け目。
その向こうに
何か建物が
見えるでしょ？





ねえ、メリー…



それにしても
何にもないけど
いいとこね。

空気もよくて
とても静かだし…

その話なんだけど…

この空、
昼なのに幻視
できちゃうのよ。

って蓮子！
昼なのに
星や月が
見えるの!?

いやここだけ
特別だと思う。

本当ならスモッグや
ビル明かりで
昼間は見えないもの。

きっと
この空気が
澄みすぎて
いるんだわ。

まるで大昔
みたいだね。

でも時間も
場所も
分からなかった。

もうちょっと
探ってみる価値、
ありそうよ？

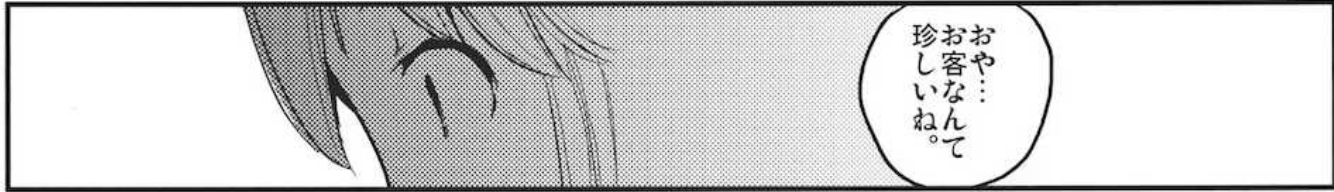
いっへ。



これ
彼岸花よね？

いや…
あそこ…

メリー！
ちよっときて！



おや…
お客なんて
珍しいね。



用村に何か
かい？



こんな村に
お客が
来るなんて…

おらは
初めてだ。

ここらは昔から
痩せた土地でね、
作物があまり
とれないんだ。

今よりずっと昔…
この村はひどい
飢饉でね。

食うに困ったときにや
彼岸花の根まで
食ったそうさ。

何百年も昔から
この村はここにあるが
だ！れも
訪ねて来やしなかった
そうだがねえ。

でも
この花の根…

毒がありますよね？

おや…
よく知ってるね。

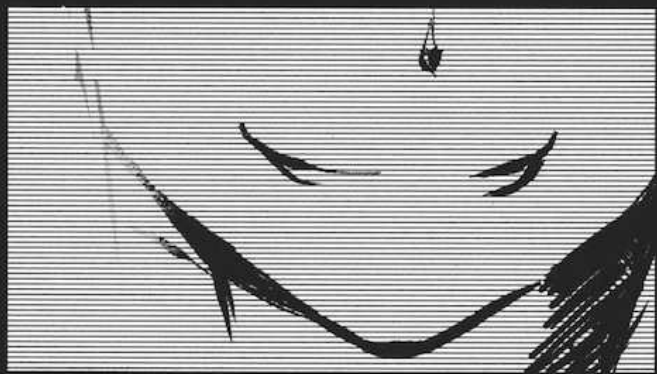
水漬けで毒抜き
しても稀に
死ぬ者もおったそうさ。

そうまでしなきゃ
生きられない
時代だった…

その年の飢饉は
特に酷かった。
村人の三分の一が
餓死したほどだった。



そのお方は
村の長に
ある話を
持ちかけた。



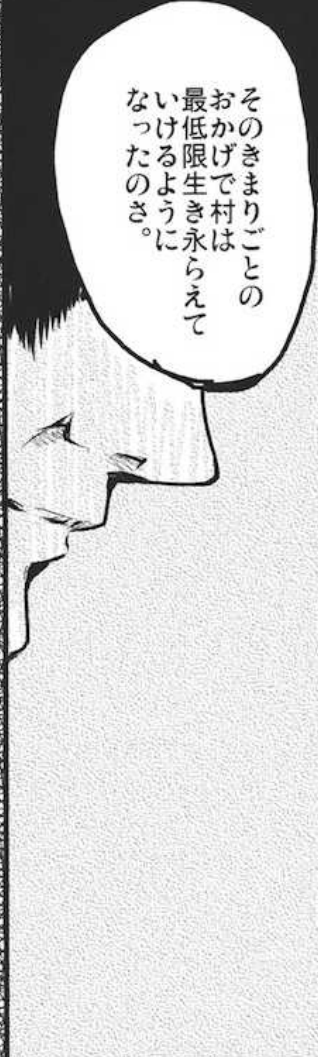
「この村はこのままでは
いつまでたっても
飢餓から救われる
ことはないだろう」
「自分によい
提案がある」

そのお方は
村にひとつの
きまりごとを作り
村人達に守らせる
よう提案した。



村の長は
それを受け入れた。

そんなある時
とあるお方が
村の長のもとに
やってきた。




そのきまりごとの
おかげで村は
最低限生き永らえて
なったのさ。

あんたたちも
村を見ただろう？

昔は毎年のように
飢餓で苦しんでいた
村とは思えないほど
安らかだったろう？

今の村に
生まれた者は
幸せなもんだよ。



その…
きまりごとって
どんな内容
なんですか？

以来
飢饉で死ぬ者も
殆ど居なく
なったという。





飢饉になる前に
口減らしとして



動けない老人を
この塚に
棄てること。



それが貧しい村が
永らえるための
きまりごとだ。



あら…

今日は一人だけじゃ
なかったかしら？



その点
この彼岸花の塚は
とても便利でなあ。

働けなくなった
おらたち
年寄りを

いつの間にか
何処かへ片付けて
くれるんだよ。

人 食
間 糧





は
?

仕方がないんだよ。

村が生きる為にはね。





一体…
なっ
たの？

何だか
分からな
いけど
結界の切
れ目に
逃げ込め
たい…

ど…なの…？



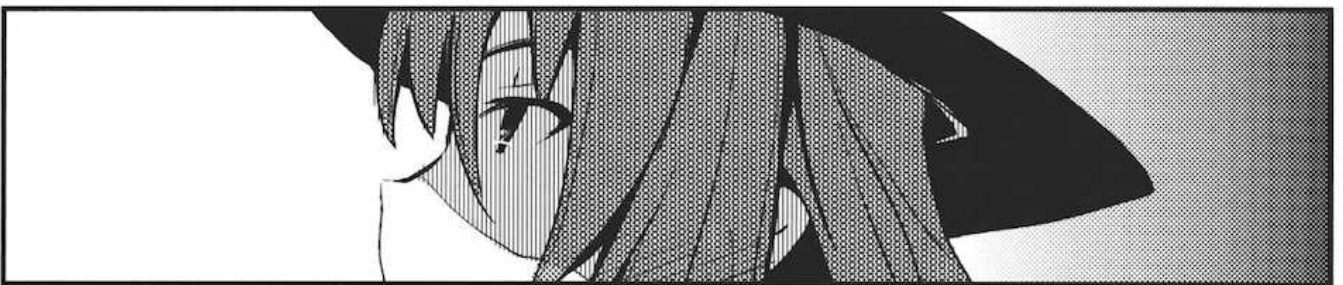
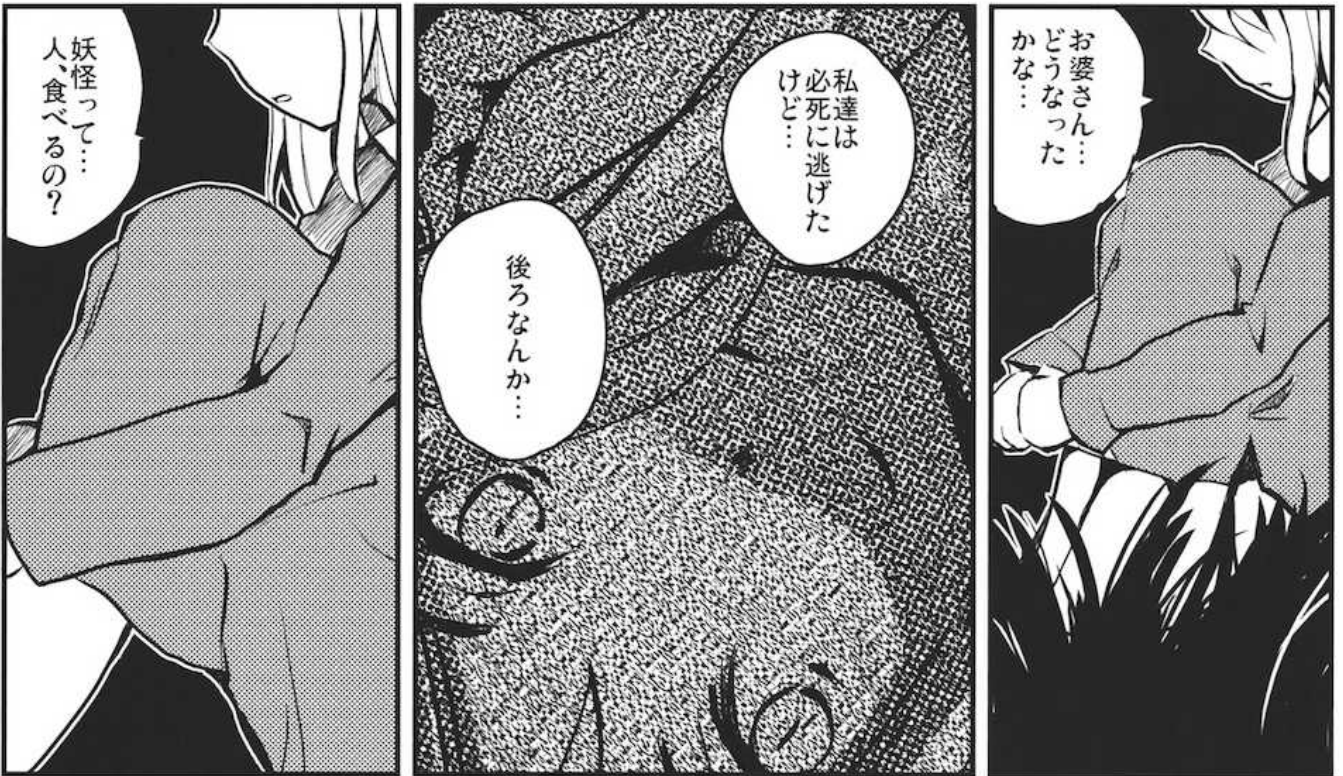
蓮…子？



安心しなさい。



よく知った
濁った空だわ。

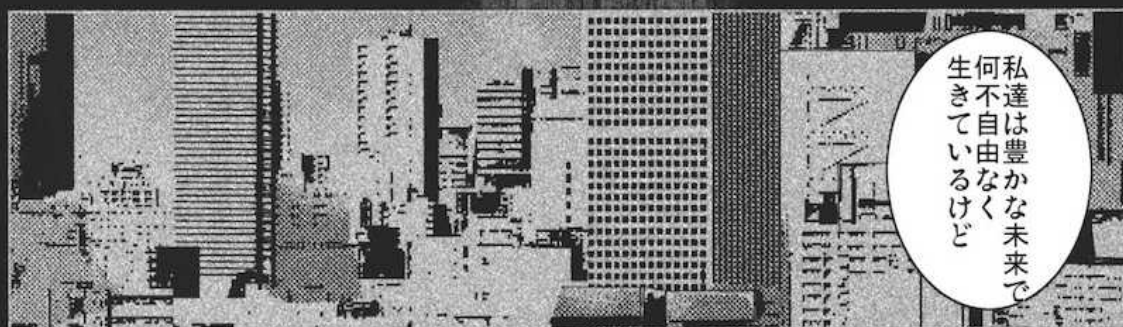




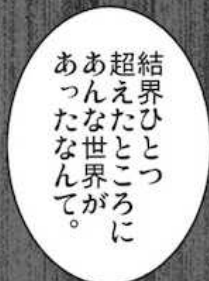
夢……
だったのかな？



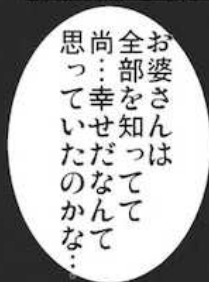
多分、
現実よ。



私達は豊かな未来で
何不自由なく
生きているけど



結界ひとつ
超えたところに
あんな世界が
あったなんて。



お婆さんは
全部を知って
尚……幸せだなんて
思っていたのかな……

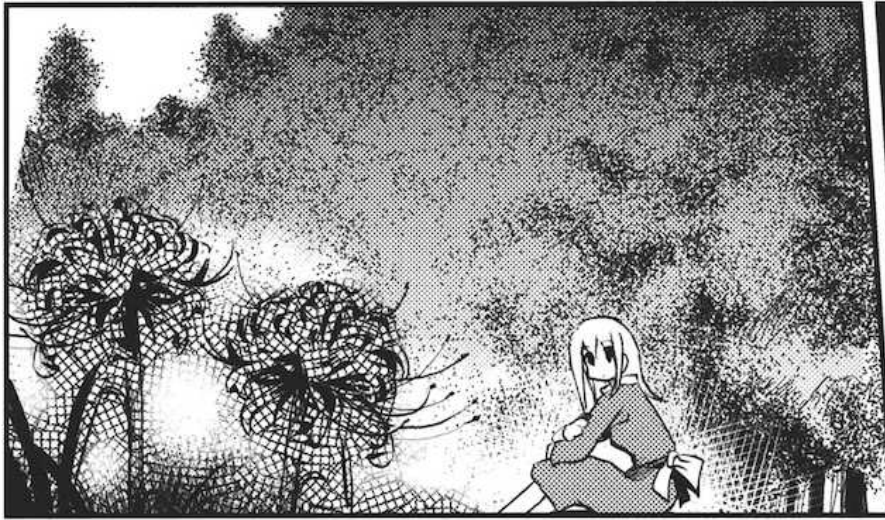
メリー。

しっかり
しなさいよ全く。

少なくともこっちの
世界じゃ人口問題や
高齢化なんてもう
四半世紀も前に
とっくに片付け
てるわよ。

そのための政治があつて
そのための国家があつて
そのためのシステム
がある…

その世界に
戻ってき
ゃない。



その全てを
知らなくとも
この社会は
成り立ってるのよ。

今はそれで
いいと思わない？

そのための
システム…？





仕方がないんだよ。

村が生きる為にはね。

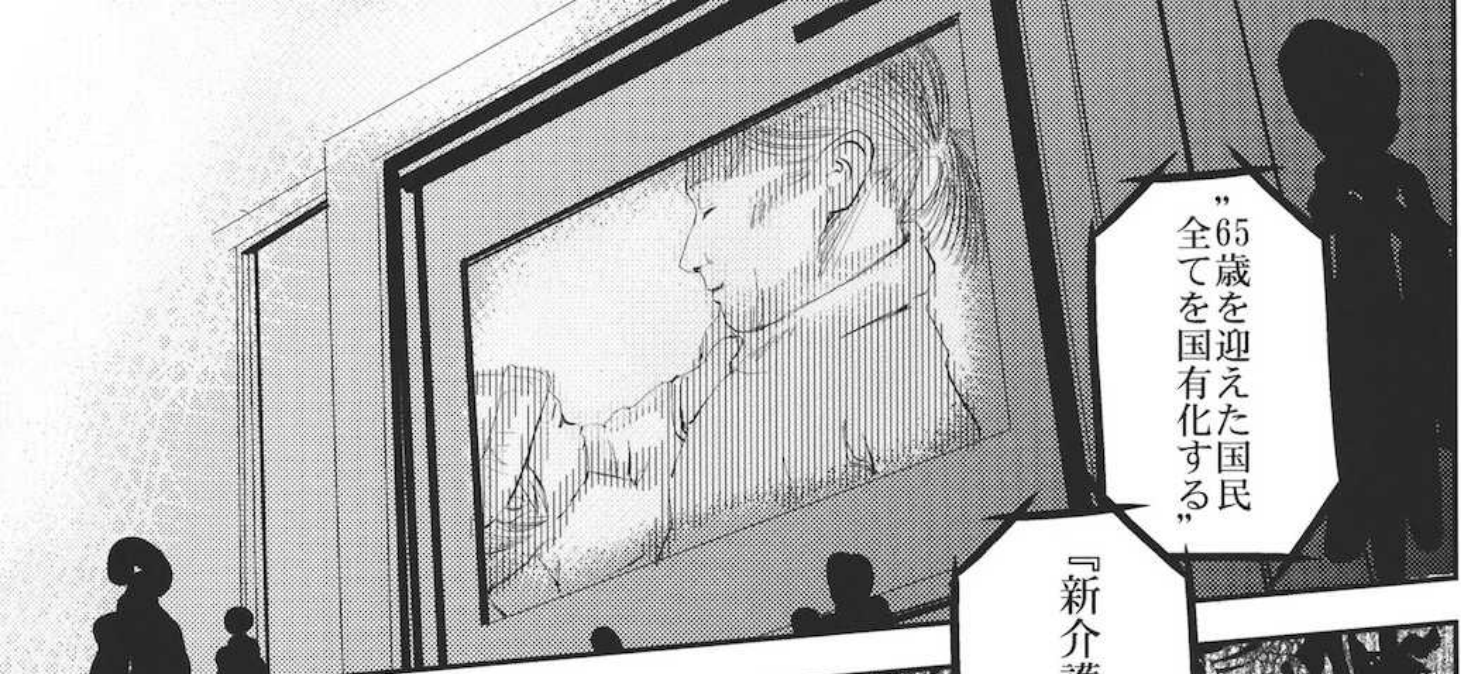
そうか

同じなのか

あ！









”65歳を迎えた国民
全てを国有化する”

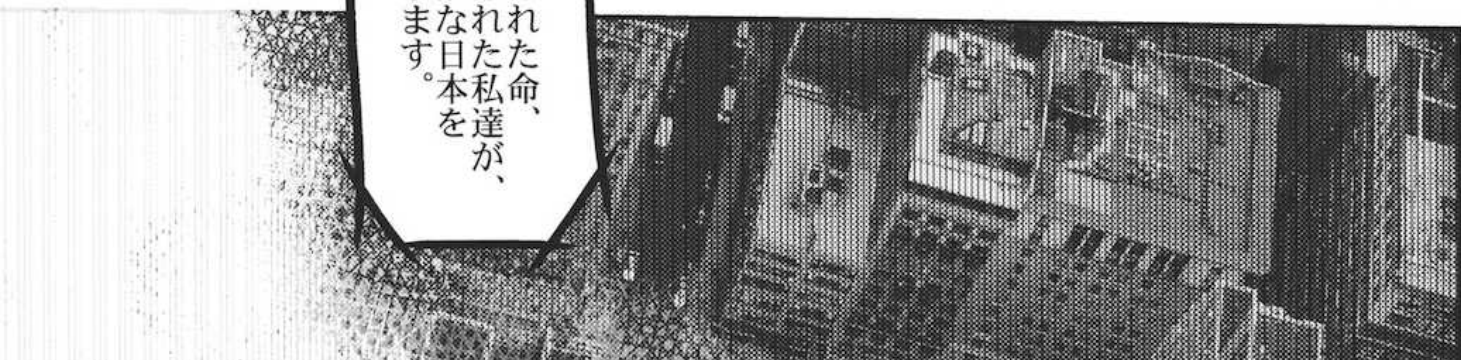

『新介護維持法』



お彼岸の今日、
その施行から
丁度20年が
経過した訳
ですが



選ばれた命、
選ばれた私達が、
豊かな日本を
作りません。





あとがき

『大空魔術 Magical Astronomy』のライナーを読んでいた、少し気になる一節があった。

「いち早く少子化が進み人口が減少に転じた日本は、
人口減少によるデメリットを上手く回避し、選ばれた人間による
勤勉で精神的に豊かな国民性を取り戻す事に成功した。」(Tr9. ネロファンタジアより)

一体どんな方法で『選ばれた人間による勤勉で豊かな国民性を取り戻』したのだろうか。

彼女達の生きる未来には、きっと私のような人間には考え及ばないような、
素晴らしい『人口調整』システムが働いているに違いない。

きっと彼女達は生まれたときには既に、『選ばれた人間』になっているんだろうなあ。
誰もが幸せだと感じざるを得ない社会が完成されているんだろうなあ。

でも凡人の私はこういう事を考えていくと、
どうしても何かを犠牲にした未来観にしか辿り着けないようで困った。

みなさんは、凡人ですか？

両神了

私信。

湯倉ありがとう。

君の持ち込んだ
「安心して人を後ろから刺すような」考え方、参考になりました。

君のネーム用ノート、まだ余白いっぱいあるよ？

以下、最初に作った妄想補足。

カナタノキシ
(彼方の岸/彼方の既視)
タノシキカナ
(楽しき哉)
Dream, Deja vu, Daydream

『百八村』

外の世界のその村は作物の生産力が少なかった。
飢饉・年貢の徴収で毎年餓死者が出ていた。

八雲紫は幻想郷の妖怪のため、
人間の安定的供給を目的としてその村とある契約を交わした。

-村の自給力より過剰分の人間を、毎年幻想郷の妖怪に差し出すこと。
(その年の収穫が確定する秋の彼岸に)

-そうすれば、お前達にとって余分なその人間を処分してやる

幻想郷が結果を作って数百年、
流入の続く妖怪と幻想郷の人間の出生とのバランスが取れなくなることも多々あった。
八雲紫はその穴埋めとして、外の世界の人間を充てることにした。

村の者達もそれに応じた。
最初、作物の取れ高に応じて毎年の生贄数を決めていたが、
村の生産量を考えた結果、
村の人口は108人が適切だということになった。
残りは足切りである。

生贄は、新生児と老人。
(世帯当たりの子供の数を家長となる長男とそのスベア次男のみに制限。
女子は村全体で決められた人数のみ…それ以上は生贄)
(老人の場合は、年齢の高い者から、その年の『必要な』出生数と同数だけ生贄)
出生率と死亡率をコントロールし、年齢分布を常に理想的に保つモデル…人口調整

八雲紫は人捨て場として、村の外れの小塚を選び、
そこを彼岸の日にのみ幻想郷に繋げた。
そこに捨てられた人間は、妖怪の食糧となった。

妖怪は生贄の鮮度がよければ死体でも構わなかった。
村人達は獣の類に亡骸を食られるのを不憫に思い、
塚の周りに無数の彼岸花を植えた。(痩せた土地でも育つ)
その毒性を嫌った獣が塚に近寄らないようにする為であった。
捨てられた者には、そこは彼岸そのものに見えた。

幻想郷の人間は、再考の道で彼岸花の毒を不快に思い、同時に生きる気力を実感して来た道を引き返す。
この村の者達にもその機会を与えられたが、気力など湧いてはこなかった。
外の世界には引き返した道の先に、希望が見つからなかった。
捨てられた者は、彼岸花の根を食って死ぬことも多かった。

八雲紫は村を見えないように境界で囲み、隠した。
(『彼岸の神隠し』として歴史に残っている)
村は確かにまだそこにあったが、見えなくなった。
人口は108人のまま、何の発展も遂げることなく。

そこは現在外の世界では『神隠し伝説のあった村』跡地として観光地となっていた。
しかし見えなくなっただけで、まだそこに村はあった。
未だに幻想郷の妖怪のための人間供給装置として機能していた。

そこに二人は迷い込んだ。

次こそ春画か!!?

K A N A T A N O K I S H I
カ ナ タ ノ キ シ

2011年8月13日 初版発行

著者

両神了/湯倉

Mail:tsururinn@infoseek.jp

発行

石切場

<http://www14.plala.or.jp/ishikiri/>

印刷

株式会社 **Complex**

KANATANOKISHI
DREAM, DEJA VU, DAYDREAM

ISHIKIRIBA